

「国家とは」の問題は大きく、焦点をもって話すことは大変難しいです。でも、この話の中からこれから考え続けるヒントのようなものが見いだせれば幸いです。

国家とは一体何なのか

ウクライナ侵略の問題

ヨーロッパは戦争の歴史

日本は長く平和な国であった？

明治以降大正昭和と侵略戦争

原子爆弾2発→国家のなしたこと

満蒙開拓団→難民→国家のなせるわざ

国家→右翼っぽい、ナショナリズム

ウクライナのように攻められたら困る

不安を煽り軍事費増加の理由

「守ること」と「殺すこと」

国家権力=軍事力、公安警察

国家の二面性 (抑圧、殺人と国民保護)

国家はうさん臭いもの

軍事力、警察がないと国家は成立しない

マイナンバーカードなど最たるもの

リアルな国家とデジタル

現実の機能と仮想空間

個人と国の関係

国民は nation, citizen であるが、 people ではない。

国に守られている→あやしい

国に守ってもらう→税金を払う

インターネット→情報は隠せない

人は people=人 (個人) として生まれるのであって、国民として生まれるのではない

国民となるのである

国家は国民を守るか？

人と人との関係がつくられる

国家は人間がつくりだしたもの

個人個人が自分で情報を集める

情報を制御されたことにより戦争がおこる

情報統制、権力に都合の悪いことは知らせない

共同体があればリーダーが必要

国家という機能をつくりだした

束の間の共感→共同性

国家を超える地球規模の問題→ナショナリズムだけでは解決できない

温暖化等地球環境の問題

ホップズ→万人の万人に対する戦い→お互いの契約が必要

目に見えないが共同体のみんながいだく幻想

刹那的、あやふや

瞬間的につながりにより不安を払拭

自分の生活を守りたいだけ

価値観の体系が崩れると銘々のエゴイズムがむき出しになる

物体があるようには存在しない

幻想のとりこになる

情報に操られる

国家ではない→個人

共同の幻想→異常な行動や思考→戦前の日本

